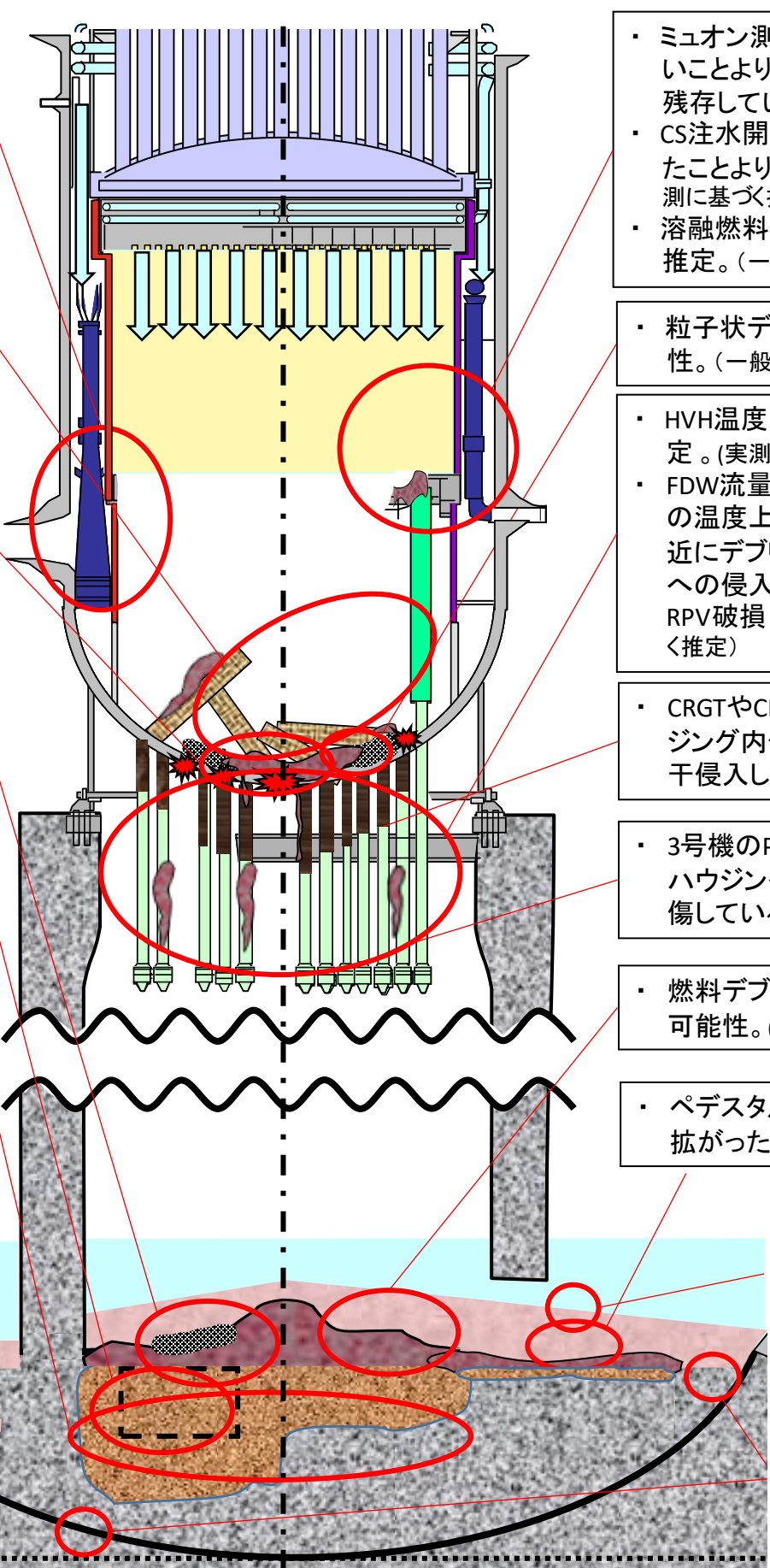


1号機のデブリ分布・RPV・PCV状態の推定図

	残留燃料棒及びその残骸※
	酸化物デブリ(多孔質)
	粒子状デブリ
	燃料デブリ(金属を多く含む)※
	コンクリート混合デブリ
	CRGT
	破損したCRGT
	CRD
	CRD(内部にデブリ)
	シュラウド
	破損したシュラウド
	ペレット※
	RPV破損口
	上部タイプレート※
	堆積物(材質不明)
	バルーニング燃料※
	酸化物デブリ※
	重金属デブリ※
	粉状ペレット※
	被覆管残渣※
	溶融炉内構造物※
	固化B4C ※
	制御棒混合溶融物※

- ・ 事故中に炉内で溶融プールを形成した可能性。(一般的な推定)
- ・ シュラウドが変形または破損または座屈している可能性がある。(一般的な推定・解析)
- ・ シュラウドが破損した場合、ダウンコマ部に溶融燃料が侵入し、ジェットポンプ破損の可能性。(一般的な推定)
- ・ 高温の燃料デブリからの熱移動が小さい場合、CRGTは溶けずに残る可能性。(一般的な推定)
- ・ 炉心まで水位形成できないため、下部プレナムに破損口が存在。(実測に基づく推定)
- ・ 下部プレナム底部のボトムドレン等が脆弱であり、損傷している可能性。(一般的な推定)
- ・ 下部プレナムに落下した燃料はRPV底部に残存する可能性。(一般的な推定)
- ・ PCV床に水が溜まっていた場合、粒子状デブリが形成される。
- ・ 粒子状デブリがある場合、淀み部にたまる可能性。(一般的な推定)
- ・ サンプ近傍のペDESTAL壁及びその下部のコンクリートが、他の領域よりも浸食が大きくなっている可能性。(解析)
- ・ MCCIを起こした燃料デブリはコンクリートと混合している。(一般的な推定・解析)
- ・ 機器ドレンサンプ内のRCW配管が損傷し、放射性物質がRCW系統内に混入したと推定。(実測に基づく推定)



- ・ ミュオン測定、解析結果及び水位が形成されないことより、大部分の燃料が溶融し、燃料棒は残存していないと推定。(実測・解析)
- ・ CS注水開始(2011/12/10)前に冷却ができていたことより、デブリの存在量は僅かと推定。(実測に基づく推定)
- ・ 溶融燃料が固化した一般的な酸化物デブリと推定。(一般的な推定)
- ・ 粒子状デブリがある場合、淀み部にたまる可能性。(一般的な推定)
- ・ HVH温度からデブリがCRD付近に存在すると推定。(実測・解析に基づく推定)
- ・ FDW流量を減少させた際に特定のHVH温度計の温度上昇が大きいことから、外周部のCRD付近にデブリが存在(外表面への付着か、内部への侵入かは区別できない)し、その直上にRPV破損口が存在している可能性。(実測に基づく推定)
- ・ CRGTやCRDハウジングの破損に伴いCRDハウジング内部に燃料デブリや溶融した金属が若干侵入している可能性。(一般的な推定・試験)
- ・ 3号機のPCV内部調査結果を踏まえると、CRDハウジング、プラットフォーム、RPV底部は損傷している可能性。(実測に基づく推定)
- ・ 燃料デブリの一部はMCCIを起こさず固化した可能性。(一般的な推定)
- ・ ペDESTAL開口部を通じて、D/W床へデブリが拡がった可能性。(一般的な推定・解析)

- ・ D/W床上には堆積物が存在し、堆積高さは、ペDESTAL開口部に近いほうが高い傾向。(実測)
- ・ サンドクッションドレン管から漏水しているため、PCVの損傷が生じたと推定。(実測・解析)

約2.6m

PCV下には約7.6mのコンクリート層がある

一点鎖線は圧力容器内・ペDESTAL内の状態が非対称であることを表現

※1号機の推定図中では使用していない